

# 山田みやこの活動報告

令和6年2月28日(水)

## 埼玉県小鹿野町へのフィールドスタディに参加

宇都宮大学高橋若菜教室主催のフィールドスタディに参加。小規模地方自治体がいかにして脱酸素社会への持続可能な移行ができるかに関連して、断熱建築について先駆的取り組みがある埼玉県小鹿野町を訪問・視察した。断熱建築の居住者、工務店の方、断熱庁舎を建設した小鹿野町の担当者に話をお聞きし、断熱技術、断熱住宅の体感、どうやって導入可能にしたのか、目的、主体、財政面について調査を行った。

### ○一般住宅

高断熱、高気密性のある木質パッシブハウス。

化石燃料、電気使用を削減し、自然エネルギーを取り入れ、CO2削減、地球温暖化防止などカーボンニュートラルの貢献になる。窓際の断熱、広い窓（三重構造）等、建物を普及し、長期にわたって使い続けられる住宅を見直していくべき。初期投資が高くなるが、環境負荷、普及拡大によりコスト削減も可能。緊急性をたいへん強く意識し、積極的に取り組む必要がある。

### ○小鹿野町の庁舎

庁舎建て替え時に環境への対策として、高効率の省エネルギー設備の導入や自然エネルギーの活用、環境負荷とランニングコストの低減という課題を、高断熱、高気密を持つ建物により化石燃料の消費を抑えるパッシブハウスを検討し、持続可能の高い庁舎を目指した。

森林整備、森林産業の活性化を図るため町有林活を使用した。木造二階建て。普段はフリースペースとして使う議場。快適で長く使うために、室温が20°C未満にならない高断熱・高気密の自然エネルギー、再生可能エネルギーを使った。

※高断熱、高気密住宅のパッシブハウス。100年先を見据えた建物。

断熱は高負荷価値な特別なものと捉えていたが、断熱機能を高くすれば化石燃料、電気の使用が削減され、結果的にCO2削減につながる。

欧米ではパッシブハウスが進み、室温もある程度一定に保たれ、冬の寒暖差によるヒートショック対策にもなっていて、環境・健康面にも大きく貢献している。

公的住宅等がパッシブハウスとして建設され、燃料代など経済的負担としている。

体感することでパッシブハウスの良さを実感したが、取り組みには大きな意識改革が必要。

### ○鳥取県の取り組みとして

とっとり健康省エネ住宅「NE-ST」

鳥取県が独自に設けた家の「断熱」と「気密」の性能基準。

高断熱、高気密な家は、冬は暖かく、夏は涼しく快適で、健康にも効果があり、省エネというメリットがある。

本県においても取り組みを進めたい。

